

平成30年度 いばらきっ子郷土検定問題 解答と解説

常陸大宮市解説

組	番	氏名
---	---	----

番号	解 説	答
1	常陸大宮市のマスコットキャラクターは「ひたまる」です。「ひたまる」は、常陸大宮市合併5周年記念事業の1つとして、全国から募集した中から選ばれた常陸大宮市のマスコットキャラクターです。	3
2	かわせみは、鮮やかな色彩から「溪流の宝石」と呼ばれ、市の豊かな自然のシンボルとしてふさわしい鳥です。	4
3	常陸大宮市の歌「君とこのふるさとで」は、作詞：野上宗也(常陸大宮市出身)、補作詞：渡辺なつみ、作曲：浜圭介(常陸大宮大使)、編曲：三浦一年、オカリナ：宗次朗、歌：テツandトモで、2014年(平成26年)4月1日に市の歌に制定されました。	1
4	常陸大宮市内には、連続して農林水産大臣賞を受賞しているきのこ「乾しシイタケ」があります。また、奥久慈特産の小粒大豆を発酵させて昔から食べる食品「なっとう」や、平成26年全国新酒鑑評会で金賞を受賞し、山方で製造された吟醸酒「久慈の山」も有名です。	2
5	2011年(平成23年)に常陸大宮市で約1600年前に生息していたゾウ類のステゴロフォドンの頭蓋(ずがい)化石が発見されました。ステゴロフォドンの頭蓋化石は、宮城県、山形県で発見されていますが、常陸大宮市で発見された化石は、世界でも産出例のない切歯(せっし)を伴う完全な頭蓋で、極めて貴重な学術資料です。	4
6	この人形は、昭和2年日米友好大使節としてアメリカから贈られたもので、同年9月1日に当時の薩郷(りゅうごう)小学校に青い目の人形「クリッシー」がやってきました。彼女はシドニー・ギュリック氏の手紙とともにパスポートを持参しており、ニューヨーク市ブロードウェイ出身であることがわかります。	2
7	花立山天文台「美(ビ)スター」は、天体望遠鏡の設計から組み立て(口径82センチメートルの反射望遠鏡を設置)、管理・運営までアマチュア天文家が担当する全国でも珍しい天文台です。毎週土曜日には観望会(要予約)が行われており、一般の方も無料で星空を堪能できます。	3
8	2019年(平成31年)に茨城県で開催の第74回全国国民体育大会「いきいき茨城ゆめ国体」において、常陸大宮市が「なぎなた」競技会場に決定いたしました。	1
9	雪村は、室町時代後期・戦国時代の水墨画家、僧侶です。常陸国部垂(現在の常陸大宮市)に佐竹氏の一族の長男として生まれました。	2
10	常陸大宮市を流れる久慈川支流の玉川は、「常陸国風土記」に赤い火打ち石が採れると書かれています。	4
11	大きさが地上7メートルの日本一の大フクロウ(不苦勞)像がある鷲子山上神社(とりのこさんじょうじんじゃ)は、天日鷲命(あめのひわしのみこと)を御祭神としており、古くからフクロウが大神様の御使い・幸福を呼ぶ神鳥として崇敬されています。	2
12	久慈川流域の下小川・西金・上小川産を本場ものとする茨城県北西部産の楮(こうぞ)は、絹に例えられる品質で、高級和紙の代表である越前奉書(えちぜんほうしょ)や本美濃紙(ほんみのし)の原料ともなっています。江戸時代より、現在の栃木県那須郡烏山等に運ばれ、鬼怒川の舟運によって江戸に入ったため、流通名として「那須楮」と呼ばれるようになりました。	4
13	2006年(平成18年)1月15日、常陸大宮市泉坂下遺跡から、ほぼ完形の国内最大の人面付土器が出土しました。この土器は弥生時代の再葬墓遺構に伴うもので、県内では市内小野天神前遺跡からの出土以来30年ぶりです。	3
14	田中豊(1888-1964)博士は、日本近代橋梁史上最も著名な技術者。田中の設計する橋は、芸術的な優雅さと実用的な強度を兼ね備えたアーチ構造が特徴。戦後の復興期に架けられた那珂川大橋は、総工費8500万円(現在に換算すると30億円くらい)と、当時としては巨費を投入した永久橋でした。	1
15	常陸大宮市下町に位置する甲(かぶと)神社の尊称、甲大宮に由来します。	3
16	常陸大宮市には那珂川、久慈川が流れており、2014年(平成26年)6月に制定した市の魚「アユ」は全国でも有数の漁獲高を誇り、毎年全国各地から多数の太公望が訪れます。	2
17	1876年(明治9年)12月8日から12月10日にかけて那珂郡小舟村や上小瀬村(現在の常陸大宮市小舟、上小瀬)の村人を中心に、地租改正に反対して小瀬一揆が勃発しました。	4
18	八溝山地は、約1200年前から当時の陸奥国(むつのくに)、下野国(しもつけのくに)などととも、古い金の産地でした。	1
19	2020年の東京五輪・パラリンピックで、常陸大宮市と宮城県蔵王町は2017年(平成29年)4月に、パラオ共和国と同国選手団が両市町で事前キャンプを行うなどとする基本合意書を締結しました。両市町で事前キャンプをするほか、五輪を機にスポーツや文化などさまざまな分野で交流を進め、友好関係を深めていきます。	3
20	「西塩子の回り舞台」は、常陸大宮市西塩子地区に伝えられてきた、日本最古の組立式農村歌舞伎舞台です。これは、農村歌舞伎が盛んであった江戸時代後期から伝えられてきたもので、県の「有形民俗文化財」に指定されています。	2
21	日本一小さな規模といわれている水族館「山方淡水魚館」は、久慈川を再現した溪流水槽にイワナやヤマメなど身近な溪流魚を展示しており、特別天然記念物のオオサンショウウオや珍しい外来種も展示生息しています。	4
22	毎年11月中旬に清流公園で行われる「やまがた宿芋煮会」は関東一の大鍋を使い「奥久慈しゃも」や、地元産の食材をふんだんに使って大いに盛り上がっています。大鍋の重さは1.8トン。直径は約「3.5メートル」です。	1
23	1602年(慶長7年)国替えになった佐竹氏の縁で、2014年(平成26年)常陸大宮市と、秋田県大館市が、災害協定を締結しました。大規模災害時、同時に被災する可能性は低い遠隔地の自治体とネットワークづくりをすることにより、応援協力体制を整え、その他の文化交流等も期待されます。	2
24	やすらぎの里公園は、自然や豊かな景観をそのまま生かしたアドベンチャー・ヘルシーリゾートです。四季折々の花。春には、水芭蕉、桜、ツツジ、カタクリ、夏にはサルスベリ、秋にはキンモクセイが園内に咲き誇ります。やすらぎ公園にある展望台は、しいたけの形をしています。	3
25	永田茂衛門(もえもん)・勘衛門(かんえもん)親子は、1649年(慶安2年)以来久慈川、那珂川から取水する辰ノ口、岩崎、小場(おば)の三大江堰(えせき)を完成させました。	4